

## 成人T細胞白血病リンパ腫における免疫調整因子の発現に関する研究

### 研究対象：

2000年1月から2015年10月までの期間に、当院にて成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）の浸潤が病理学的に確認されている患者さんを対象とします。

### 研究の概要：

ATLは造血器悪性疾患の中でも予後不良な疾患であり、多剤併用化学療法や造血幹細胞移植が標準治療として行われますが、ATLの患者さんの中での高齢者の割合も高く毒性の強い治療を受けることが困難な方も多いのが問題となっています。近年固形がんの領域を中心に免疫状態を調整する因子を標的とした薬剤ががんに対する免疫能を活性化し治療効果を示すことが報告され、固形がん領域の化学療法が大きく変わろうとしています。ATLにおいても同様の治療法が効果がある可能性があります。免疫状態を調整する因子の発現などは明らかとはなっておりません。本研究ではそのような免疫状態を調整する因子のATLにおける発現を解析し、今後の新規治療法の開発の基礎情報とすることを目的としています。

### 研究の意義：

ATLにおいて免疫調整因子の発現を明らかにすることで、それらの因子を標的とした治療法が有効である可能性を検証することができます。そのような基礎情報を得ることがATLにおける今後の新規治療法の開発につながるものと期待されます。

### 目的：

ATLにおける免疫調整因子の発現を明らかにすることで、それらの因子を標的とした治療法が有効である可能性について検討します。このような新規治療法が導入されることがATLの成績向上に貢献することを目的とします。

### 方法：

2000年1月から2015年10月までの期間に、当院にてATLの浸潤が病理学的に確認されている患者さんを対象とします。病理標本における免疫調整因子（PD1, PDL1/PDL2, CTLA-4, FOXP3）に加えて一般的なATLの診断に必要な染色を行い、これらの因子の陽性率を明らかにします。

対象となった患者さんの背景などの情報をデータベースから抽出して免疫調整因子の発現と予後の関連など統計的な解析を行います。

個人情報保護に関する配慮：

本研究では、包括的同意が得られている患者さんの検体（試料）を用います。包括的同意試料の未使用残試料は病理科に返却、その後は病理科で保存されます。ただし、包括的同意の運用開始以前の患者さんの既存試料は人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、国立がん研究センター研究倫理審査委員会の承認を得て、同意は取得せずに用います。

本研究で用いられる患者さんの情報は解析に用いるデータベースには個人を特定できないように既に記号化した番号により管理されます。また、この研究で得られた成果は学会や学術論文などに発表されることがありますが、個人情報公表されることはありません。解析中に作成するデータベースも発表などが終わりましたら速やかに破棄します。しかしながら、患者さんからのご希望があれば、その方のデータは研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先までお申し出ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科

藤 重夫

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話番号：03-3542-2511 / FAX 番号：03-3542-3815